

私立大学図書館協会
2006年度第2回東西合同役員会議事要録

日 時：2007年3月2日（金） 午後2時～午後5時

場 所：京都ガーデンパレス 「葵」

出席者：出席者名簿参照（p.1-p.2）

議事に先立ち、会長校より開催挨拶の後、今回の東西合同役員会は、役員校交代のための新旧合同の役員会として開催した旨の報告があり、引き続き自己紹介が行われた。

議事進行は、松井賢一龍谷大学学術情報センター長が担当した。

[報告事項](2006年9月～2007年2月)

1．協会会務報告

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.5-p.8）にもとづき報告が行われた。

2．東地区部会会務報告

東地区部会長校駒澤大学（奈良田）から配布資料（p.9-p.12）にもとづき、東地区部会会務および研究部の活動報告が行われた。

3．西地区部会会務報告

西地区部会長校久留米大学（熊谷）から配布資料（p.13-p.25）にもとづき、西地区部会会務および各地区協議会の活動報告が行われた。

4．委員会報告

（1）協会賞審査委員会報告

協会賞審査委員会委員長（実践女子大学：浪岡）から配布資料（p.26）にもとづき委員会報告が行われた。

併せて、協会賞の審査結果については、協議事項4で提案する旨の報告が行われた。

（2）研究助成委員会報告

研究助成委員会委員長（南山大学：栗山）から配布資料（p.26）にもとづき委員会報告が行われた。

併せて、2006年度および2007年度の研究助成の審査結果については、協議事項5で提案する旨の報告が行われた。

（3）国際図書館協力委員会報告

国際図書館協力委員会委員長（関西大学：市原）から配布資料（p.27）にもとづき、主として以下の報告が行われた。

寄贈資料搬送事業

第1回目に引き続き第2回目を9月に募集を行った結果、青山学院大学から申請があり、釜山外国語大学に139冊の寄贈をすることを進めている。

海外集合研修

例年11月に実施していたが、受入先の問題もあり、今年度は3月11日～17日にオハイオ州立大学図書館を中心に4名（石川敬史・工学院大学、清水道太・国際基督教大学、二塚恵里・国立音楽大学、森戸智枝・広島修道大学）の図書館員で集合研修を行うことになっている。

海外派遣研修

9月6日～11月3日の間、立命館大学の高井 響氏をイリノイ州立大学モートンソンセンターの研修プログラムに派遣した。

2007年度の派遣研修については、現在2名の応募があり、3月9日に委員会を開催し、そこで面接選考をすることになっている。

国際図書館協力シンポジウム

前回の東西合同役員会で報告したとおり、受け入れ先の都合により、今年度の開催は断念し、来年度に開催することで協議を進めている。

その結果、今年度のシンポジウム関係の予算は未執行となる。

(4) 協会ホームページ委員会報告

協会ホームページ委員会委員長（南山大学：石田）から配布資料（p.28）にもとづき委員会報告が行われた。

併せて、協会ホームページ委員会の委員会構成の変更については協議事項7で、協会ホームページのサイト・ポリシーについては協議事項8で提案する旨の報告が行われた。

5. 協会関連事項報告

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.30-p.32）にもとづき以下の報告が行われた。

(1) 国公立大学図書館協力委員会報告

(2) 平成18年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会報告

(3) 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会報告

(4) 日本図書館協会関連報告

(5) その他（後援事項）

第9回図書館総合展特別フォーラムにおける講演会の後援について

国立情報学研究所主催 国際シンポジウムの後援について

6. 2007年度行事・会議予定について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.34）にもとづき報告が行われた。

また、現在日時が未定になっているものについては、次期役員会等で順次決定されることになることが説明された。

[協議事項]

1 . 2006 年度一般会計・特別会計決算（案）について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.35-p.39）にもとづき以下の提案が行われた。

今回提案している決算（案）は、今年度の事業が一部残っていることから収入、支出に見込み額で記載。参考として支出状況を p.38-p.39 につけている。

一般会計について

[収入の部]

会費の収入増は、今年度の新規加盟校 10 校分の会費分である。

また、「総会・研究大会特別会計」で剰余となった 6,024 円を「その他」として繰り入れた。

[支出の部]

《 運営費 》

- ・ 事務費は、3 月中に行われる事業、引き継ぎに関わる経費を見込んで計上している。
- ・ 通信費の 19 万円の支出超過は、全加盟館宛の発送文書が予想を上回ったことによる。

《 事業費 》

事業費の内、5 の会報刊行費以外の決算数字は確定している。

予算額と大きな差異が出たものは以下のとおりである。

- ・ 部会交付金の支出超過は、新規加盟校 10 校分の部会交付金の増額である。

《 I F L A 負担金 》

I F L A 負担金の予算超過は、対ユーロの為替レートによるものである。

特別会計

《 研究助成特別会計 》

[収入の部]

寄付金は、まだ未入金であるが、3 月中には入金見込みである。

[支出の部]

2006 年度の研究助成金は、2 件で合計 197,580 円である。この内容については、協議事項 5 で報告する。

《国際図書館協力基金特別会計》

[収入の部]

《事業収入》

- ・シンポジウムが開催延期のため、参加費は 0 円である。
- ・海外集合研修は、参加者が予算 7 名に対して 4 名になったため 15 万円の収入減である。

[支出の部]

《シンポジウム運営費》

- ・シンポジウムが開催延期になったため支出額は 0 円である。

《搬送事業費》

- ・搬送事業 2 件分の支出である。

《海外集合研修補助費》

- ・3月11日から実施のため、概算として計上している。

会長校龍谷大学（寺本）より、今回の決算報告（案）について、この決算（案）は、2006 年度予算に対する執行状況を踏まえて、次年度繰越金を算出し、2007 年度の予算規模を確定させる必要があるため暫定的に作成した。

国際図書館協力基金は、国際シンポジウムの延期により、次年度繰越金が増えているが、これについては、次年度予算に組み入れる。

《総会・研究大会特別会計》

予算規模が当初予算より参加者が増え（300 名 総会 322 名、研究大会 340 名）に増えたことによる。支出についても、参加者増による支出増が起こっている。最終的に、6,024 円の剰余金が発生し、一般会計に戻すことになった。

協議の結果、提案どおり承認された。

2 . 2007 年度事業計画（案）について

3 . 2007 年度一般会計・特別会計予算（案）について

事業計画の協議にあたって、議長の会長校龍谷大学松井センター長より、事業計画（案）は、次年度予算とも関わることから次年度予算（案）と併せて提案したいとの提案があり、異議無く了承され、一括して協議することになった。

会長校龍谷大学（甲野）から事業計画（案）が配布資料（p.40-p.41）にもとづき以下の提案が行われた。

（ 1 ）2007 年度事業計画（案）は、本来は次期会長校が提案すべきものであるが、

事業の継続性から現会長校の龍谷大学が案を作成した。

(2) この計画案の提案については、昨年12月に開催された常任幹事会に次期会長校の中央大学にもご出席いただき協議に参加していただいた。

(3) この事業計画は、今年度の事業計画をベース作成したが、次期役員校で具体化を検討していただきたい。

引き続き、会長校龍谷大学(甲野)より2007年度一般会計・特別会計予算(案)について配布資料(p.42-45)にもとづき提案が行われた。

今回の予算(案)は、2006年度の次年度繰越額が確定していないため概算金額で計上されていることが説明された。

[一般会計]

《収入の部》

- ・ 会費は、2006年度末の加盟校数496校で予算化。
雑収入は、資料売上代と預金利息である。

《支出の部》

運営費

- ・ 事務費は会長校交代に伴う経費を見込んで100,000円を増額した。
- ・ 通信費は過去の実績(支出超過)を考慮して100,000円を増額した。

事業費

- ・ 協会賞費は最大4件授与できることから4件分計上している。
- ・ 部会交付金は加盟校数の実数(496校)分を予算化している。
- ・ 協会HP有料サイト利用料の増は、2006年11月より契約容量を増やしたため。

I F L A 負担金

会費の値上げ(314ユーロ 514ユーロ)。

[特別会計]

《研究助成特別会計》

- ・ 寄付金は2006年度と同様600,000円を計上している。
- ・ 支出の部では、2件分1,200,000円を予算計上している。

《国際図書館協力基金特別会計》

収入の部

- ・ 前年度繰越金は、2006年度末開催の国際シンポジウム開催経費が繰り越されている。
- ・ 基金(寄付金)は2006年度と同額とした。
- ・ 事業収入では、国際シンポジウム参加費は2回分を海外集合研修参加費は7名分を予算化した。

支出の部

- ・ シンポジウム運営費は2006年度延期分を含めて2回分を予算化している。
- ・ その他の予算項目は2006年度と同額とした。

以上の特別会計の予算(案)について会長校龍谷大学(寺本)から《研究助成》《国際図書館協力基金》とも前年度繰越金が増えているが、2007年度も寄付金を同様に依頼することとしている。

種々協議の結果、「2007年度事業計画(案)」「2007年度予算(案)」は、提案どおり承認された。

2007年度事業計画案および2007年度一般会計・特別会計(研究助成・国際図書館協力基金)が承認されたことを受けて会長校龍谷大学(甲野)から総会までの予算の暫定執行について以下の提案があり、異議無く了承された。

- (1) 本予算(案)は、2007年9月の総会で承認を得て正式決定となる。
- (2) 一方で2007年4月から諸事業が始まることから、総会までの間、今回ご承認頂いた範囲内での予算の暫定執行を行いたい。

《総会・研究大会特別会計》

当番校立教大学(牛崎)から予算(案)の提案の前に、第68回総会・研究大会の開催要項(別綴じ資料)の概略の説明が行われた。

引き続き、総会・研究大会特別会計について当番校の立教大学(牛崎・小野田)から配布資料(p.45)にもとづき予算(案)の説明が行われた。

この予算(案)については、協議事項6で総会・研究大会開催要項を協議していただくことになっているが、そこで承認されることを前提に予算編成がなされているとの説明の後に以下の提案が行われた。

収入の部

- ・ 参加者数は350名を想定している。
- ・ 協賛企業以外の企業参加も多く見込んで計画しており、その分を予算化している。
- ・ 試みとして総会・研究大会会場にインフォディスクを設置し、その使用企業から「特別協力費」を徴収することを企画しており、240,000円を予算化している。

支出の部

- ・ 企業参加の増により増えた収入で意見交換会の参加費を下げ、参加者

を増やしたい。

- ・ 他の経費については、現在検討中であるが、それぞれの項目として予算を積算し予算を作成した。

協議の結果、総会・研究大会予算（案）は、提案どおり承認された。

4．2006年度協会賞について

協会賞審査委員会委員長（実践女子大学：浪岡）から前日開催された同委員会において協会賞の審査対象になった4件審査内容が詳細に報告された後、そのうち以下の3件を協会賞に推薦したいとの報告があった。（p.46 および別紙）

候補者名：藤倉恵一氏（文教大学図書館）

対象業績：「図書館のための個人情報保護ガイドブック」の刊行

候補者名：井上真琴氏（同志社大学総合情報センター）

対象業績：「図書館に訊け！」の刊行

候補者名：明治学院大学図書館

対象業績：「和英語林集成」デジタルアーカイブス

協会賞審査委員会委員長の報告を受け、協議の結果、委員会の提案を尊重し、報告通り協会賞を授与することになった。

協会賞授与は、次年度総会時に行うことになった。

5．2006年度研究助成について

研究助成委員会委員長（南山大学：栗山）から配布資料（p.47 および別紙）にもとづき審査結果が報告された。

また、今回報告するうち、第一次で応募のあった3件（2006年度分2件、2007年度分1件）については、第2回常任幹事会で既に決定していることから、この場で、追認（事後承認）していただき、ご了承願いたいとの説明があった。

応募のあったもの及び審査結果は以下のとおり。

（1）第一次応募

2006年度対象

ア．テーマ：大学間における図書館システムの統合とその可能性および効果についての考察

種別：個人研究

応募者：中林雅士（明治大学図書館）

研究期間：2006年4月～2009年3月

イ. テ - マ：図書館評価 LibQUAL + ™の日本における実施展開

種 別：機関研究（慶應義塾大学メディアセンター）

研究代表者：市 古 みどり

共同研究者：酒井由紀子・村上篤太郎

研究期間：2006年11月～2008年3月（2年間）

2007年度対象

ア. テ - マ：実績（量・質）評価可能な業務委託仕様書および数値化を伴う実績評価方法モデル作成の可能性について

種 別：課題研究

応募者：伊藤秀弥・塩野博雄（立教大学図書館）

研究期間：2007年4月1日～2008年3月31日

（2）第二次応募

2007年度対象

ア. テ - マ：図書館評価 LibQUAL + ™の日本における実施展開

種 別：機関研究（慶應義塾大学メディアセンター）

研究代表者：市 古 みどり

共同研究者：酒井由紀子・村上篤太郎

研究期間：2007年4月～2008年3月（1年間）

委員長より、以上の審査結果、現時点の今後3年間の研究助成金は以下のとおりになり、2007年度分は、現在決まっているものの他に2007年度に募集することになる（慶應義塾大学の第3年度分も含む）が、既に2007年度については、協議事項3で承認された研究助成1,200,000円（600,000円、2件）を上回るることになることから、予算の増額を提案したい。

2006年度～2008年度 研究助成額

	2006年度	2007年度	2008年度
研究助成金	197,580	1,367,580	167,580 + 撤去料
	(中林) 167,580	(中林) 167,580	(中林) 167,580 + 撤去料
		(立教) 600,000	
	(慶應) 30,000	(慶應) 600,000	

研究助成委員会委員長の報告をうけ、協議の結果、委員会の提案を尊重し、予算を超えているが委員長報告のとおり承認された。

予算超過の件について会長校龍谷大学（寺本）から、予算の組み替え等については次期会長校と調整を行いたい。予備費からの補填も考えられることや協会賞についても予算4件に対して3件が確定していることから予算組み替えも含めて協議したいとの見解が示された。

6．第68回（2007年度）総会・研究大会について

次期総会・研究大会の当番校の立教大学から提案の前に、会長校龍谷大学（寺本）から、前回の東西合同役員会において立教大学からの提案については、その後、常任幹事会での協議、当番校と次期会長校との調整等行われてきた。

本東西合同役員会では、細部まで決定するというのではなく、総会・研究大会運営の大枠の了承をいただき、後は、当番校と次期会長校との間で調整をして運用していただくということになるとの説明が行われた。

引き続き、当番校の立教大学（牛崎）から配布資料（p.48-49）にもとづいて提案が行われた。

〔提案趣旨〕

大学図書館界の周辺には書店やN I Iのような機関がある。基本的には私立大学図書館協会が中心になるが、職員数が減ったり、アウトソーシングが進んだりしている中で、より良い総会・研究大会が運営できるようにしたい。

具体的な方策として以下のことを行いたい。

- （1）加盟校、協賛企業以外からの参加を一定数の枠内で認めたい。
- （2）海外の大学図書課員や図書館情報学を学んでいる大学院生等がいれば、一定数の枠内で参加を認める。
- （3）総会・研究大会参加者の情報入手の機会を広げるために、企業・機関によるインフォデスク（仮称）を大会会場付近に設置する。
協賛企業を優先する。
- （4）意見交換会の参加を増やすために参加費を下げる。（7,500円を6,000円）
- （5）インフォデスク（仮称）参加企業30,000円（意見交換会1名分含む）。
- （6）協賛企業以外の企業からの意見交換会参加は10,000円を徴収する。
- （7）インフォデスク（仮称）は、12卓程度を設営する。

当番校（立教大学）からの提案について協議の結果、運営案の大枠について提案どおり承認され、今後、次期会長校と相談しながら運営することになった。

7. 次期委員会委員について

会長校龍谷大学(甲野)から配布資料(p.50-53)にもとづき以下の提案が行われた。

協議の結果、提案どおり承認され、現在、未決定になっている委員については、3月中に決定するよう努力することになった。

8. その他

(1) 協会ホームページ委員会からの提案・確認事項について

協会ホームページ委員会委員長(南山大学:石田)から配布資料(別紙)にもとづき以下の提案が行われた。

協会ホームページ委員会からの提案・確認事項の取り扱いについて会長校龍谷大学(寺本)より、次期常任幹事会等で協議したいとの見解が出され、今後検討を継続することになった。

[懇談事項]

1. 2011～2012年度会長校について

会長校龍谷大学(甲野)から配布資料(p.55)にもとづき、2011年度～2012年度の会長校について立教大学から内諾を得た旨の報告があった。

会長校龍谷大学松井センター長より、これで予定されている議題は全て終了した。龍谷大学は会長校として2年間会長校を担当し、まだ任期が満了した訳ではないが、ほぼ終了したので会長として一言ご挨拶申し上げたいとの発言があり、以下のとおり挨拶と謝辞が述べられた。

- (1) 私立大学図書館をめぐる環境には厳しいものがあること。
- (2) 私立大学図書館協会もこのような環境の中で変革をしなければならないこと。
- (3) 永年勤続表彰制度を廃止いたしました。これは、現在の状況の象徴的なものであり、重要な意味を持っていること。
- (4) この間、協会活動の活性化を目指して「協会賞」の在り方、「研究助成制度」の活発化等を提案し、ご賛同を得て変革に一步を踏み出し成果を得たことについては喜んでいること。
- (5) 無事任期を全うし、一定の成果が出たということは皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。ただ、本日の役員会の中で出された意見にあった様に、変革は今後もっと重要になるので今後一層のご協力をお願いしたい。

以上